

THE J こどもひろば
子育てに関する意識と実態調査
結果報告書

株式会社 PonoLipo

2017年6月

【調査概要】

実施日：2017年5月27日（土）、28日（日）

実施場所：THE J こどもひろば

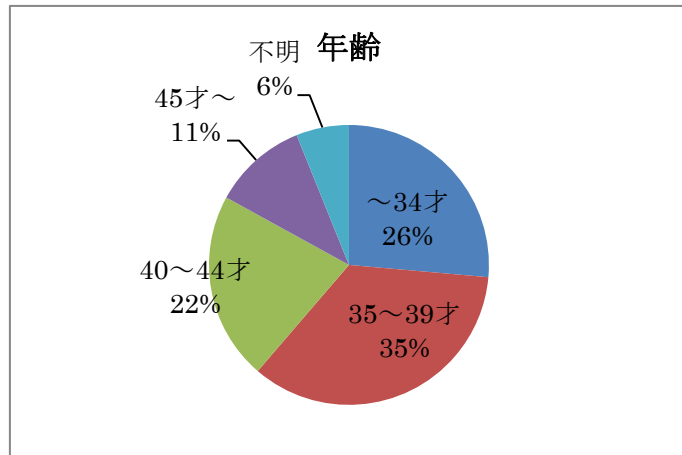
調査手法：アンケートにその場で自筆記入の上、その場で回収。

回収票数：129(有効回答数)

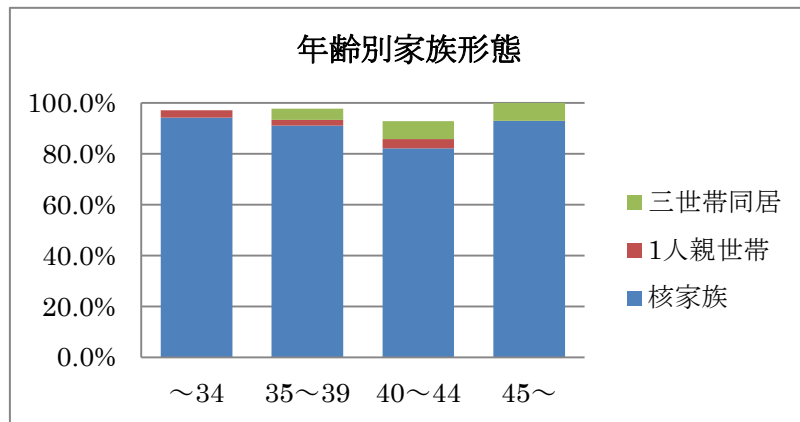
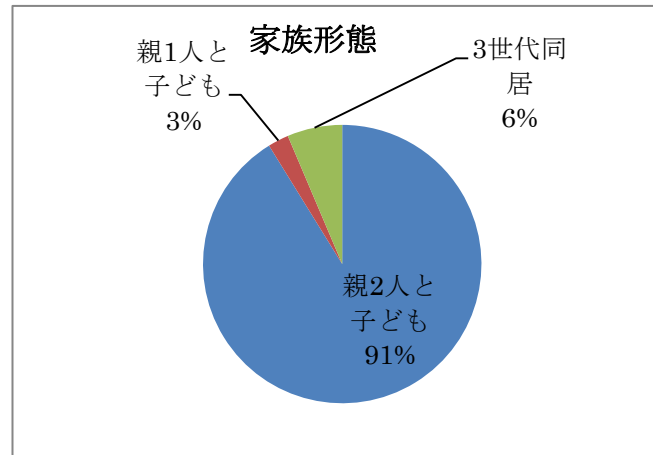
調査実施機関：株式会社 PonoLipo

◆回答者プロフィール

平均年齢 34.9 歳

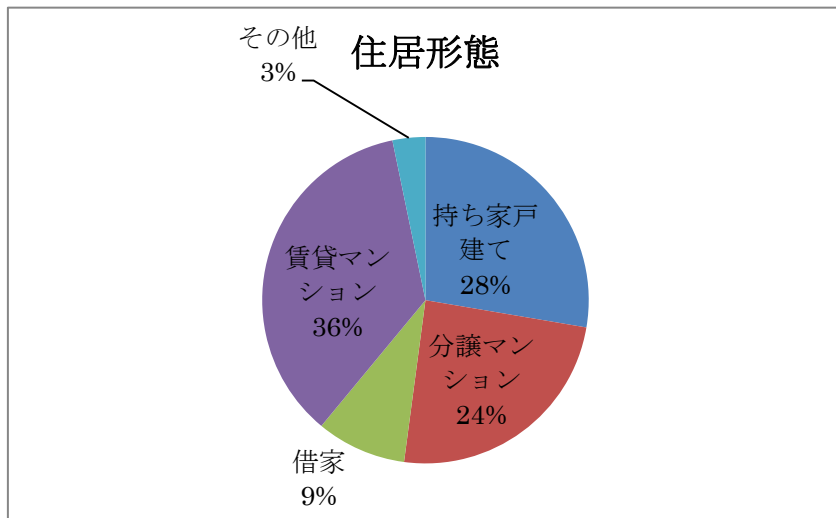


核家族比率 91%

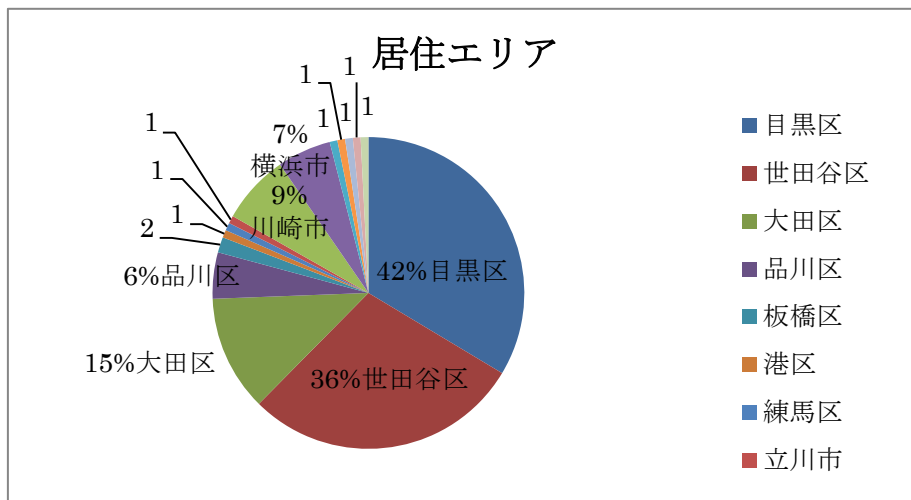


対象者の年齢別にみると、40代前半の核家族比率が10%低い。

持ち家比率 52% 二人にひとりが持ち家という高持ち家率。



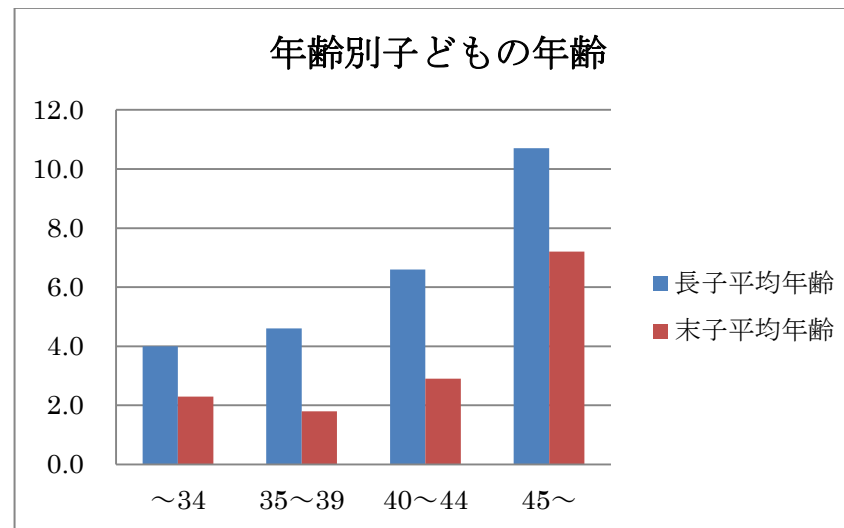
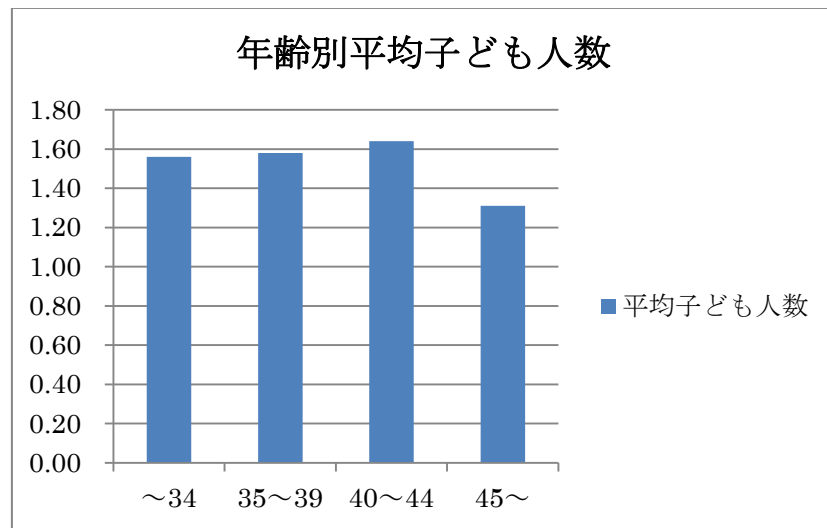
持ち家戸建て 28%、分譲マンション 24%。



居住エリアは、近隣自転車圏内の目黒区・世田谷区で約7割。

平均の子ども人数は、1.57人。45才以上の子ども人数がやや少なく平均1.31人。

子どもの長子年齢は、～34才で4.0才、45才～10.7才。幼稚園から小学校中学年の子ども一人っ子または、その下に弟妹を持つ。末子には、未就学の乳幼児も含まれ、まさに子育て真っ最中にあるといえる。

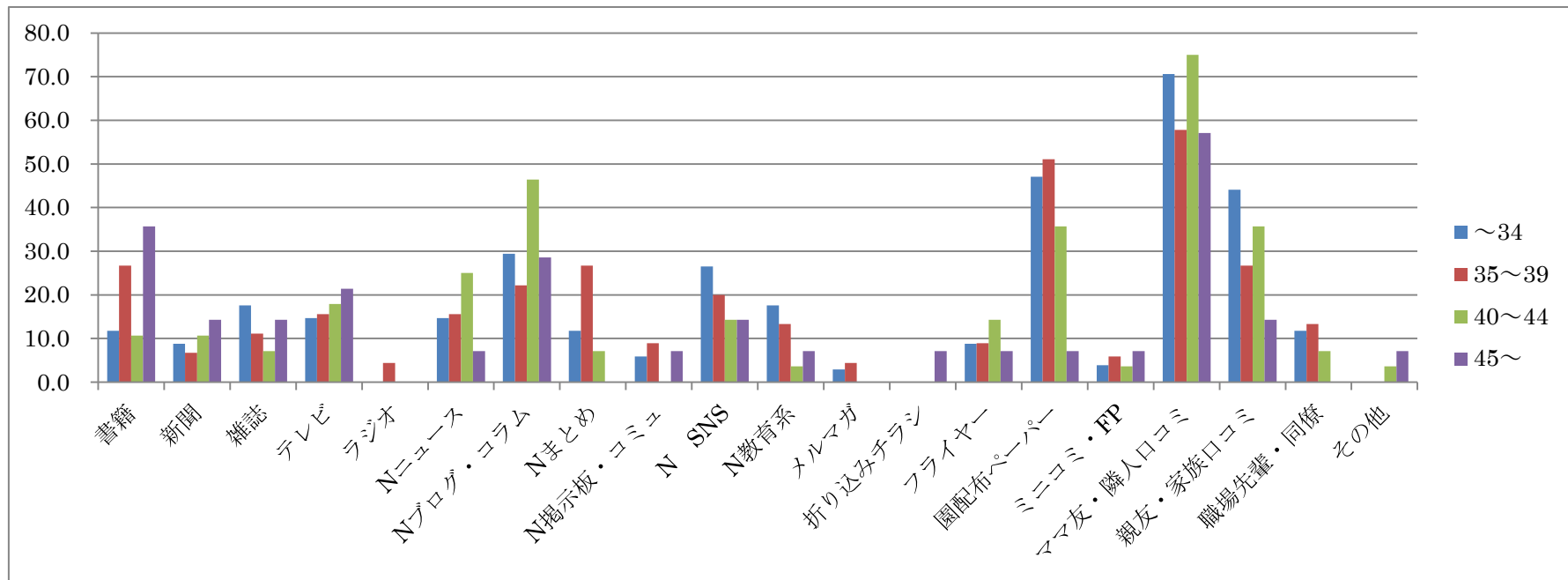


◆子育て情報の入手経路

「子育て情報の入手経路」と限定しての回答だが、口コミ情報が突出して利用されている。

口コミや、幼稚園発の発信ほどではないが、個人のネットブログに対する感度が良い点も注目される。

既存メディアでは、書籍が高く、相対的に発信元が、特定の個人である情報に対する感度が高いことが分かる。

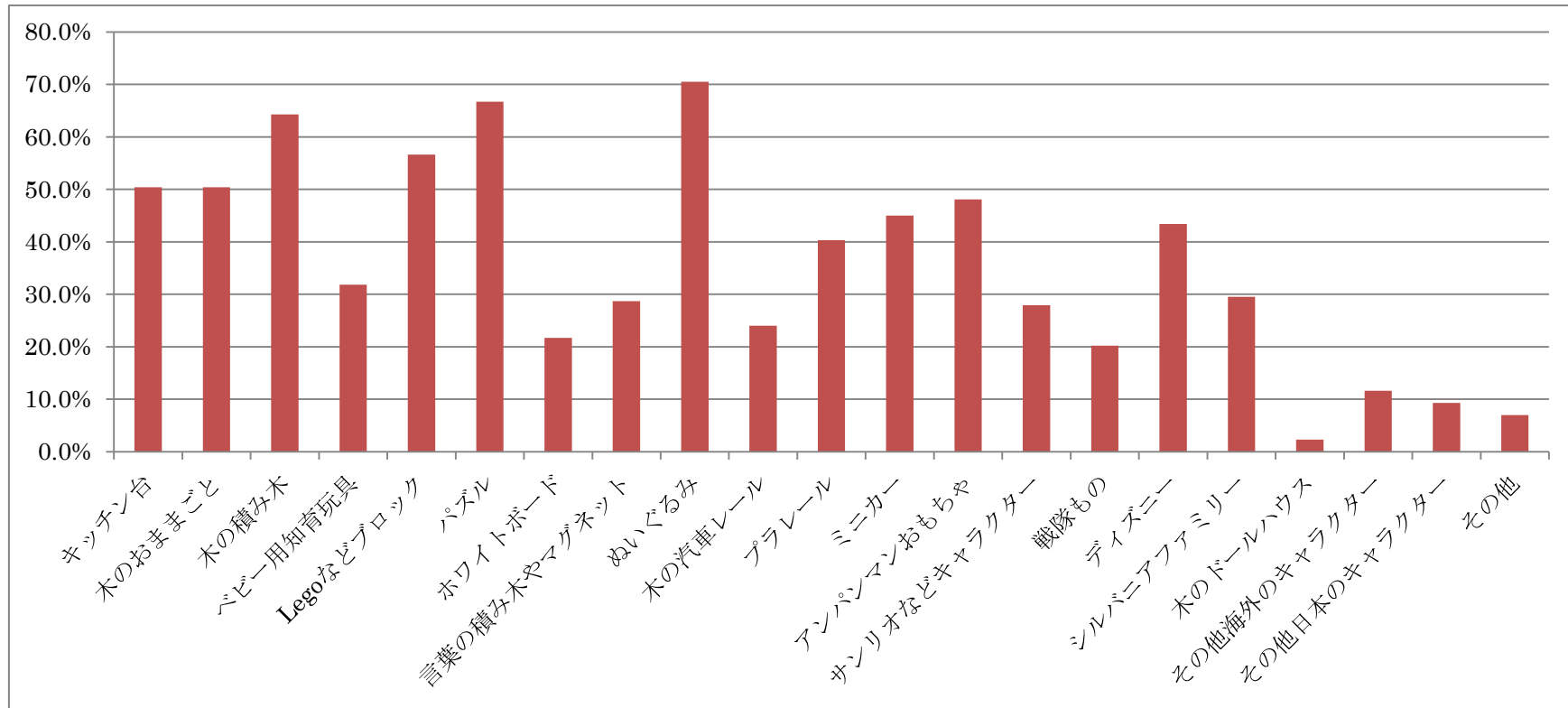


◆所有しているおもちゃ

所有しているおもちゃの平均アイテム数は、20項目中8.0。

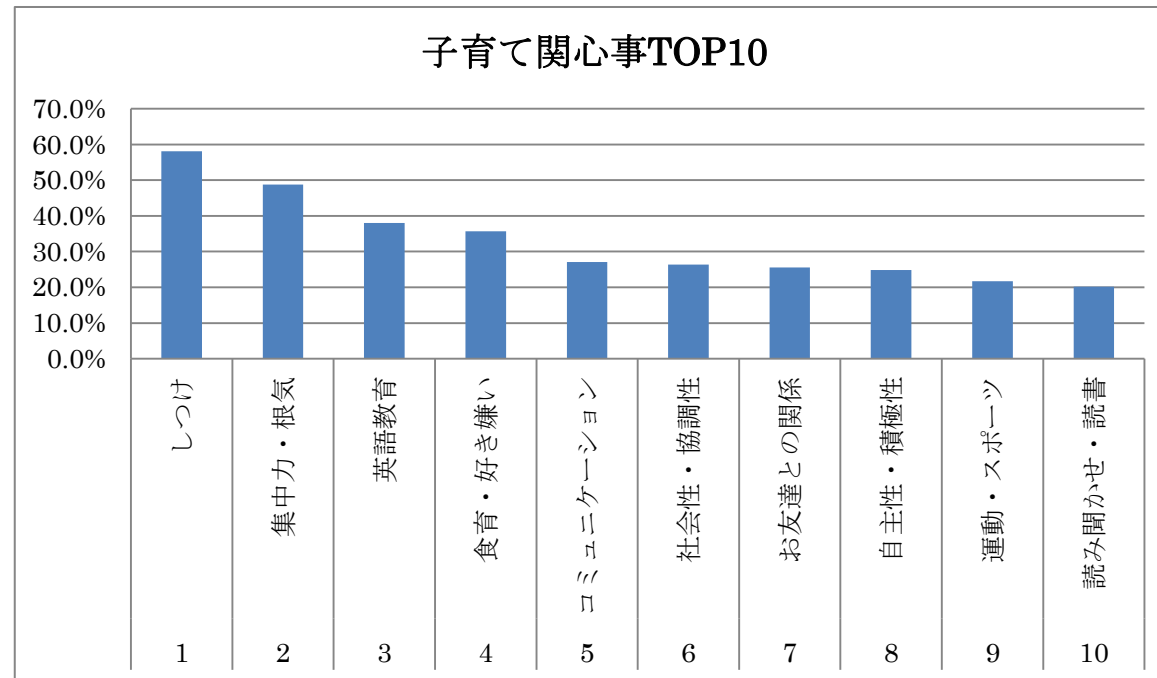
キッチン台と木のおままごとは、2人にひとりが所有。積み木、レゴブロック、ぬいぐるみも50%超えの定番おもちゃ。

キャラクターでは、アンパンマンとディズニーが40%を上回ったが、他は3割を切った。



◆子育てで関心のある事柄

「しつけ」が、全体の6割強と、全体で最も高い関心のある事柄として挙げた。
続いて「集中力・根気」「英語教育」「食育・好き嫌い」への関心が3割を超えて高い。
3位「英語」と10位「読み聞かせ・読書」以外は、日常生活や社会生活に関わる能力や、
運動・食事などのフィジカルな事柄などに重点が置かれ、教育・知育というよりは、
人間力の充実が重要と意識されており、落ち着いて成熟した親子関係が読みとれる。
ただ、核家族世帯で、子どもを「しつけ」していく大変さ、インターネット時代において
子どもに「集中力・根気」を持たせることの困難さが伺える結果となった。



◆所有する絵本と児童書の数

全体で、平均して日本語の絵本 42.2 冊、英語の絵本 8.7 冊となった。

45 才～では、最高日本語の絵本 300 冊という家庭もあり、平均 100 冊を上回った。

幼稚園から小学校中学年にかけて、読書教育に非常に熱心な家庭が多いことに驚かされる。

今回の調査対象者では、読書する文化が深く家庭に根付いていることが示された。

スマホやタブレットなどのデジタルデバイスが広く家庭にも普及している最近の状況からすると、

これだけのボリュームの絵本・児童書が家庭にストックされているという現実は、刮目に値する。

子どもを育てる良書の供給が、どれだけ大切か改めて考えさせられる結果となった。

